

冷たい感覚楽しむ

新座市立東北小6年

猪股 里紗 11 (新座市)

「寒っ」。友達がそう言うっているとなりで私はふうんと生返事をする。

私は冬が好きだ。寒いのが好きだから。そして友達がそでで手をおおいかくそうとしている時、冷たさを感じた。私は寒く感じないのではない。冷たさを楽しんでいるのだ。指先から少しずつ冷たくなって、感覚がまひするのが気持ちいい。そう伝えると、目を見開かれたり、苦いものを食べたとような顔になったりする人がいるが、すすめているわけでもないのに……と正直あきれれる。しかし、私でも勝てないのが、冬將軍だ。ゲームの対戦感覚でたえているが、去年は寒いを連発し、負けた。今年こそ勝ってやる。心の内でちかい、空を見上げる。「いつでもいいぞ」。小声でつぶやき、少し顔の筋肉をゆるめた。